【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	神埼市立神埼小学校
1　前年度 評価結果の概要	**変化の大きい状況の中で、その時々に最善と思われる校務体制・意識を持つことに努め、工夫した校内研修・ミニ研修の設定等で、職員が、共通理解・共通実践に向かう学校体制が築かれてきたことが大きな成果であると考える。この体制の継続を図りながら、教職員個々の指導の差を縮めていくことが重要と考える。教育活動については、教員のビジョンのもと、児童の主体的な活動を活性化させた学校づくりを目指していく。また、「つながる」をキーワードに、保護者とのつながりの強化を目指す。**
2　学校教育目標	**『体を強く　心賢しく　学び合う　せんだんの子』の育成** **＜健康や安全に気を付けた生活や行動ができる子ども＞ ＜生命あるものを大切にし、思いやりの心をもつ子ども＞ ＜自ら学ぶ意欲をもち、人と関わりながら、学び合っていく子ども＞**
3　本年度の重点目標	**①　落ち着きのある学習環境をつくり、学力の確実な定着と学習意欲の向上を図る。** **②　校内外において基本的な生活習慣を身につけさせ、健康で明るい生活態度を養う。** **③　自己肯定感を高め、「自分を好きに」「人を好きに」「学校が好きに」「ふるさとを好きに」なる児童の育成を図る。** **④　校務の効率化を図り、教員の質の向上を目指す。**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 〇百マス計算で各学年で設定した目標の達成率80%以上	・教職員間でマイプランを共有し、毎学期、振り返りを行う。 ・週3回、陰山メソッドによるスキルタイムを実施する。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの実践については、93%の教師が達成している。2学期以降の成果指標を新たに設け、継続して実践していく。 ・陰山メソッドによるスキルタイムは、集中して取り組んでいるが、目標達成した学級は5クラスにとどまった。	B	・マイプランの実践については、90%の教師が達成しており、成果指標に向けての取組ができている。 ・陰山メソッドによるスキルタイムは、集中して取り組む児童の割合が今回も95%であったが、目標達成した学級は、全体の半分に満たなかった。	B	・学習に対して興味関心を持つような指導を常に考えた実践が必要。 ・学力・学習状況調査の結果から学年の差が見られた。ぐんぐんタイムや陰山メソッドなど様々な取組をされているので継続的な取組を望む。地道な取組が必要だろう。 ・スキルタイムに集中して取り組むのは共通実践で評価できる。目標達成にまずは半分→6割を目指して欲しい。	〔まなび部〕 ・学力向上対策コーディネーター
	〇「わかった」「できた」を実感できる授業づくりの推進	〇「めあて」と連動した「振り返り」を書くことができる児童90%以上 〇「授業で学習したことがわかる」と回答した児童80%以上 〇「自分の考えを書くことができる」「考えを伝え合うことができる」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し「めあて」と「振り返り」が有機的に連動した授業づくりを推進し、年間を通して、校内研修等で取組を紹介する。 ・各教科等において、「書く活動」「話し合う活動」の場の設定を行う。	A	・「振り返り」を書くことができる児童90%、「授業で学習したことがわかる」と回答した児童92%、「自分の考えを書くことができる」「考えを伝え合うことができる」と回答した児童91%で成果指標は達成している。今後も共通実践を通して、授業づくりを改善していく。	A	・「振り返り」を書くことができる児童89%、「授業で学習したことがわかる」と回答した児童94%、「自分の考えを書くことができる」「考えを伝え合うことができる」と回答した児童93%で成果指標はほぼ達成している。授業づくりにおいて、共通実践が定着していると考える。	A	・めあてを立てることができていても、考えを書くが「よく」から「だいたい」に移っているのが課題である。	〔まなび部〕 ・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇道徳や人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上	・ふれあい道徳や人権に関する取り組みについて保護者や地域に情報を発出する。 ・平和集会及び人権集会の実施	A	・道徳の授業参観を1学期に実施。人権に関する取り組みについては、学校便り、学級便り等で随時伝えている。 ・平和集会は8月、人権集会は11月に行う予定。あいさつ・返事は96%、ていねいな言葉遣いについては92%の児童ができていると答えている。	A	・道徳の授業参観を全学級で実施。人権に関する取組については、学校便り、学級便り等で随時伝えた。 ・平和集会は8月、人権集会は11月に実施。あいさつ・返事は95%、ていねいな言葉遣いについては91%の児童ができていると答えている	A	・授業参観時の全学級の道徳授業実践は保護者へ啓蒙する上で効果的と感じた。道徳の授業はもちろん、全教育活動の中で常に意識して統一して実践することが必要。 ・ふれあい道徳は平和、人権に対する取組の定着はよい。 ・縦割り活動がない中、上級生と下級生との心のつながりが薄いのではないか。上の子↔下の子をおもう心の醸成はいかがだったか。	〔こころ部〕 ・人権・同和教育担当者 ・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇「いじめや不登校など、子どものサインを見逃さず、子どもの心情に寄り添う指導を行っている」と回答した教職員90%以上	・毎月の「今の気持ちアンケート」の実施 ・月1回の生徒指導協議会の実施 ・年2回（5月期、10月期）の担任教員と児童個々の「お話週間」の設定	A	・今の気持ちアンケートは基本的に毎月実施している。お話週間は1、2学期にそれぞれ全クラスで実施した。 ・いじめや不登校など子どものサインを見逃さず、子どもの心情に寄り添う指導を行っていると答えた教職員は100%であった	A	・今の気持ちアンケートは基本的に毎月実施した。お話週間は1、2学期にそれぞれ全クラスで全員に実施した。 ・いじめや不登校など子どものサインを見逃さず、子どもの心情に寄り添う指導を行っていると答えた教職員は	A	・受け止め方が人により違うので細心の注意を持って接することが大切。 ・アンケートの取組が子供のサインを見逃さず、早期対応につながることを期待する。	〔こころ部〕 ・教育相談担当 ・教頭
	〇規範意識の向上	〇「神埼市四力条の誓い」を意識した教育指導をしていると回答する教職員90%以上	・「神埼市四力条の誓い」の学級掲示 ・「あいさつ」「返事」「そろえる」をキーワードとした基本習慣の徹底。	A	・「神埼市四力条の誓い」の学級掲示は、全ての学級で実施している。 ・「神埼市四力条の誓い」を意識した教育指導を行っていると回答した教職員は94%。	A	・「神埼市四力条の誓い」の学級掲示は、全学級で実施した。 ・「神埼市四力条の誓い」を意識した教育指導を行っていると回答した教職員は93%になった。毎月の生活目標と関連付けて、指導を行っていく必要がある。	A	・4力条の誓いが重点取組となっているのを認識した。	〔こころ部〕 ・生徒指導担当
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	●早寝、早起き、朝ご飯の徹底 〇登校時や給食前後などの石けん手洗いや消毒とマスク着用の徹底 〇習い事がない日は、9時から10時までには寝ると回答する児童90%以上。	・毎日の健康観察での調査声かけの徹底。 ・校内各所に消毒を設置する。手洗いやマスク着用については随時声かけをする。 ・保健便り、学級通信などで規則正しい生活習慣の重要性やゲームの使用時間の管理を啓発する。	A	・毎日の健康観察での調査声かけの徹底により、規則正しい生活習慣が身に付いている。手洗マスクの着用は、97%できているが、昼休み後のマスク着用を徹底する。 ・高学年のゲーム時間が気になるので懇談会で話題を出し、家庭と連携して改善していく。	A	・早寝、早起き、朝ご飯は、ほぼ徹底できている。 ・マスクの着用率は、どの学級でもほぼ100%。給食時以外のマスク着用も定着してきた。不織布マスクの着用も100%に近づいている。 ・冬休み明けの生活のリズムがくずれている児童が数名いたが、修正できてきた。	A	・神埼小で学級閉鎖をほぼ実施していないのは、マスク着用の徹底指導ができている効果だと思う。授業参観で皆がマスクをつけている姿が見られた。 ・毎日のマスク体温測定家庭の協力に感謝したい。 ・スマホやゲームが早寝早起きの妨げにならないよう家庭内のルールにも期待と協力を寄せる。	〔すこやか部〕 ・体力づくり担当 ・健康指導担当 ・養護教諭
	〇安全に関する資質・能力の育成	〇運動場で安全に遊ぶことができたと回答する児童90%以上。 〇自転車のヘルメット着用率90%以上	・月に1度ヘルメット着用、防犯ブザー所持の状況を調査し学校便り等で保護者への啓発を図る。 ・遊具での正しい遊び方、教室等での安全な過ごし方の継続指導	B	・ヘルメット着用、防犯ブザー所持の状況調査が毎月できなかった。ヘルメット着用率は96%ではあるが、高学年の児童でかぶっていないことがしばしば見受けられるので指導を続ける。 ・遊具などでのけがは、減少傾向である。廊下歩行は、継続指導が必要である。	A	・ヘルメット着用率は、94%と少し下がったが、隔週月曜日にヘルメット調査と事後指導を行うことで、意識付けを図ることができた。 ・毎月の生徒指導会議で問題点等を全職員で共通理解し、学年朝会で実態に合った指導を行った。そのため、校内のけがは減少傾向にあり、児童の安全意識の高まりが感じられる。	A	・ヘルメットの着用率は高いが校外での児童の安全意識がやや不十分。校内のような目配りが地域にも必要である。	〔すこやか部〕 ・安全教育担当 ・教務
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 〇全体の時間外勤務平均45時間以下	・パソコンを活用し、職員連絡や事前提案等時間短縮を図る。 ・見通しをもった行事、授業計画案によりタイムマネジメントを図る。 ・毎月の勤務時間状況をフィードバックし業務の見直しを行う。	A	・パソコン上で職員連絡用掲示版やweb行事黒板(週予定/月予定)を活用し、連絡会の時間短縮と個々のタイムマネジメントを図った。 ・毎月職員会議で、勤務時間状況をフィードバックし、業務の見直しを行う時間をとった。時間外勤務平均は45時間以下であるが約3分の1の職員が45時間を上回っている。	A	・職員パソコン上における連絡用掲示版やweb行事黒板、職員室前黒板を活用し、連絡会の時間短縮、個々のタイムマネジメントを図った。 ・職員会議の議案毎の提案時間を示し、時間短縮を図った。 ・毎月、勤務時間状況を振り返り、個々の業務の見直しを行う場を設定した。時間外勤務平均は45時間以下であった。約3分の1の職員が45時間を上回っている。提示した退勤時刻はほぼ守れた。	A	・会議の時間設定や時間短縮など常に時間を意識させる手立てが取られている。継続してほしい。 ・勤務時間状況の振り返りは個々の業務の見直しに効果的だろう。	・教頭 ・各部長
	〇教職員の自らの働き方の改革と心身の健康の保持への意識の向上	〇「働き方の改革を意識し、心身の健康の保持に努めている」と回答した教職員80パーセント以上	・メンタルヘルスに関する情報の提供 ・働き方改革や健康保持に関する研修会の実施	A	・県の教職員課から出されている健康情報誌「Smile」を全職員に配布し、情報提供に努めた。 ・「働き方の改革を意識し、心身の健康の保持に努めている」と回答した教職員は、80%以上であった。	A	・県発出の健康情報誌「Smile」や心身の健康に係る情報を全職員に配布、回覧し、情報提供ができた。 ・「働き方の改革を意識し、心身の健康の保持に努めている」と回答した教職員は、90%以上であった。	A	・教職員不足が一番のネックとなっている。 ・専門職や支援員等で教職員の負担減という外部的な取組はできないだろうか。 ・心身の健康の保持に十分努めていただきたい。	・教頭 ・各部長

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇教職員の資質向上	〇実践の共有、実践力の向上	〇教職員の資質能力の向上に資する職員研修を計画的な実施	・外部講師招聘による専門性の向上を図る教職員研修の実施 ・若手教職員を中心としたミニ研修の実施 ・相互授業参観の実施	A	・服務規律、タブレット活用、校内研究、英語活動等、外部講師を招いて、研修を実施した。 ・メンターミーティングを2回開き、授業力向上や学級経営についての若手の研修を行った。 ・校内研究に関わって学年グループの授業参観を行った。	A	・長期休業中や課後に外部講師を招聘するなどして、計画した全て（10）の研修を行った。 ・学期に1回のメンターミーティングを行った。 ・通常学級の全てにおいて国語科の研究授業を行い、研究協議をもった。5学年において、外部講師を招聘した。また、特別支援学級と通級教室においても全学級授業を公開した。	A	・手本となる先生像をそれぞれが持つことが大切。 ・学調の結果で学級差があるときいた。経験の差は仕方ないが、どう受け止めるかが大切。職員の自己評価を期待する。 ・外部講師の招聘の実施等評価する。 ・国語科の研究授業を通した授業力向上の取組は大いに評価したい。	・教頭 ・教務 ・研究主任
〇特別支援教育の視点に立つ学級づくり	〇個の特性に応じた指導・支援の充実 〇個々が大切にされる学級風土の醸成	〇毎月の子ども支援会議の実施 〇保護者アンケートにより「学校は一人一人の児童が大切にされる学級づくりに努めている」との回答90%以上	・子ども支援会議にて配慮を要する児童の状況について共通理解を図り組織対応を充実させる。 ・専門性向上を目指した職員研修の実施 ・学校便り、学級便り等の発行と校内環境整備	A	・毎月、子ども支援会議で配慮を要する児童の状況について共通理解を図った。 ・適宜、気になる児童について、外部機関を招きケース会議を開いたり、病院と情報共有したりした。 ・教育相談、特別支援教育、QU等の職員研修を実施し、専門性向上を目指した。	A	・毎月、特別支援コーディネーターを中心に子ども支援会議を実施し、全職員で共通理解ができた。適宜、気になる児童について、外部機関を招きケース会議を開いたり、病院と情報共有したりと、組織で対応できた。 ・全体研修に加え、教育相談、特別支援教育のコーディネーターの専門性向上を目指し、外部研修に派遣した。	A	・個の特性は皆違うので一律の対応はできない。 ・会議で全職員での共通理解、気になる子のケース会議等組織としての対応がされている。 ・様々な問題に対応しながらの教育活動、ご苦労様である。 ・様々な取組が実施され、成果を上げていると思う。	・特別支援教育CO ・教育相談担当
〇ICT利活用	〇教職員のICT利活用能力の向上 〇情報モラル教育の充実	〇「ICT機器を効果的に生かした授業ができる」と回答する教職員95%以上 〇学年に応じた情報モラル教育の実施	・プログラミングに関する研修への参加奨励 ・タブレット活用に関する研修会の実施 ・全学年にて情報教育モラルの授業実践	A	・情報教育担当や高学年担任が外部のICT利活用やプログラミング教育に関する研修や研究発表に参加し、校内での活用に役立てている。 ・10月時点で、3学年が情報モラル教育の授業を実践した。2月までに全学級で実施予定。	A	・「ICTを場面に応じて、効果的に利用し指導をしている」と答えた職員は100%であった。 ・全学年がプログラミング教育、情報モラル教育を行った。 ・全職員対象や希望者対象にタブレット活用に関する研修を行い、職員の技術が向上した。また、5、6年の全学級で日常的にタブレットを活用できるようになった。	A	・まだまだICT活用は初歩の段階だ。 ・授業での活用ができていたようだ。 ・コロナ禍でICT利活用がより実践的となった。教職員の能力向上に拍車をかけたと思う。	・情報教育担当 （まなび部） ・視聴覚教育担当

●･･･県共通　〇･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・コロナ禍の中、様々な課題に向かい、工夫しながら組織で教育活動を進めることができた。 ・共通理解・共通実践をもとに教職員の指導力向上を図ると共に、児童主体の活動を活性化させる体制づくりを目指す。 ・GIGAスクール構想を念頭に、PCやタブレットを有効活用し、学力向上を目指す。 ・児童の学力向上につながるような校内研究に取り組む。